

松嶋夜話 卷之下 68

〔原文〕其后將軍尊氏治世頃此島有賴賢和尚

〔訓読〕其の後の將軍尊氏の治世の頃、此の島に賴賢和尚有り

〔原文〕住妙覺庵

〔訓読〕妙覺庵に住む

〔原文〕太揚道聲矣

〔訓読〕太（はなは）だ道聲を揚ぐ

〔原文〕賴賢徒三十人僉議

〔訓読〕賴賢の徒三十人僉な議し

〔原文〕請於唐僧建長一山和尚

〔訓読〕唐僧の建長の一山和尚に請ふ

〔原文〕記賢之行由

〔訓読〕賢の行由を記す

〔原文〕立石碑乙本

〔訓読〕石碑乙本を立てる

〔原文〕證明其師現存之徳

〔訓読〕其の師の現存の徳を證明す

〔原文〕此碑儼然于今

〔訓読〕此の碑今に儼然たり

〔原文〕天下命世之石碑也

〔訓読〕天下の命世の石碑なり

〔原文〕然此山住持自圓福有驚遷于建長者

〔訓読〕然れども此の山の住持、圓福より建長に驚遷する者有り

〔原文〕有自建長來臨此山者

〔訓読〕建長より此の山に來臨する者の有り

〔原文〕如建長大覺圓覺覺滿建仁俊明極等

〔訓読〕建長の大覺、圓覺の覺滿、建仁俊明極等の如く

〔原文〕皆成當山二代五代九世而其塔院現在于今

〔訓読〕皆當山の二代三代九世と成り、其の塔院現に今に在り

〔原文〕故初曰此山於鎌倉派

〔訓読〕故に初め此の山を鎌倉派を曰ふ